

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

令和7年 賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会 盛大に開催される

令和7年1月17日(金)「ステラ・デル・アンジェロ」において、公益社団法人埼玉県臨床検査技師会令和7年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会が開催されました。今年はコロナ禍のため中止となってから、5年ぶりに来賓、会員、賛助会員合わせて180名の方々にご参加いただき盛大に開催することができました。祝賀会は、猪浦一人副会長の開催の挨拶にて始まり、続いて松岡優会長から新年の挨拶、そして来賓の挨拶を埼臨技学術顧問の櫻林郁之介様より、埼臨技賛助会員を代表してシスメックス株式会社の加藤邦広様よりいただきました。引き続き来賓の方々のご紹介が行われ、埼臨技名誉会員の原繁一様のご発声で乾杯となり、楽しく、賑やかな歓談のひとときを過ごしました。祝賀会の中では各賞受賞者の方々のご紹介が行われました。ここで改めて受賞者の方々をご紹介します。受賞者の皆様、おめでとうございます。



●瑞宝双光章

島村 益広 氏 関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所

●埼玉県公衆衛生事業功労者賞表彰

瀧沢 義教 氏 獨協医科大学埼玉医療センター

坂口 武司 氏 なんてんクリニック

松尾千賀子 氏 埼玉医科大学総合医療センター

川音 勝江 氏 独立行政法人地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター

●埼臨技功労者表彰

矢作 強志 氏 第51回埼玉県医学検査学会学会長

●埼臨技会誌優秀論文賞表彰

神谷 明 氏 防衛医科大学校病院

受賞者への花束贈呈があり、埼臨技名誉会員の津田聡一郎様より受賞者への祝辞の後、各賞受賞者の方々から謝辞をいただきました。今回も多くの方が受賞され、来賓の方々を交えての記念撮影も華やかなものとなりました。楽しく賑やかな会も終焉に近づき、昨年12月8日に開催された第52回埼玉県医学検査学会学会長でありました木暮憲幸様より学会盛会の御礼の後、第53回埼玉県医学検査学会学会長の瀧沢義教様より開催の案内と協力要請が行われました。最後は祝賀会らしく長谷川常務理事の一本締めで今年の会もお開きとなりました。ご出席いただきました皆様ありがとうございました。2025年が皆様にとりまして良い年となりますようご祈念申し上げます。

(文責：笹木知子)



第53回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

このたび、第53回埼玉県医学検査学会の学会長を務めさせていただきます獨協医科大学埼玉医療センター臨床検査部の瀧沢義教と申します。この紙面をお借りして、学会開催の概要と実行委員会の活動報告をさせていただきます。

1. 第53回 埼玉県医学検査学会・開催概要

開催日：2025(令和7)年12月7日(日曜日)

開催場所：ソニックシティ

テーマ：ホップ ステップ ジャンプ

「～飛躍する未来に向けて、今学ぼう～」

学会ロゴ：



2. 実行委員会・活動報告

われわれは、昨年11月に実行委員会を発足し、活動をスタートしました。第1回と第2回の実行委員会では、学会テーマについての意見交換がなされ、テーマをホップ・ステップ・ジャンプ、サブテーマを「～飛躍する未来に向けて、今学ぼう～」に決定しました。このテーマには、学会参加により得た知識、検査手技や情報などを、さらにステップアップ、ジャンプアップしていただきたいという想いが込められています。また、学会カラーはコスモス色を採用しました。

第53回学会では、①知識や技術修得のきっかけ作り、ヒントの提供②心も体もリフレッシュ③ステップアップ(技師育成・教育)④チーム医療について考える⑤各種教室を開催して臨床検査技師

の業務を知っていただく⑥臨床検査技師の未来を考える（学生教育、人工知能を含む）などを企画に盛り込む予定です。また、第53回学会では、実行委員会で達成数値目標を設定しています。参加人数の目標は一般参加者を含め1300人、演題数の目標は105題としました。これらの目標数値は、過去10年に開催された学会の平均値よりやや多い数値となります。われわれ実行委員は、この数値目標達成に向け意見を出し合い、工夫を凝らし、会員の皆様にとって有意義な学会となるよう準備を進めてまいります。会員の皆さまにおかれましては、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

今後の予定につきましては、埼臨技だよりやホームページなどで随時ご報告させていただきます。多くの会員皆様の学会参加をお待ちしております。



第53回 埼玉県医学検査学会・実行委員名簿

役 職	氏 名	施 設 名
学会長	瀧沢 義教	獨協医科大学埼玉医療センター
実行委員長	野本 隆之	上尾中央医科グループ 蓮田一心会病院
事務局長	間中 樹里	上尾中央医科グループ 八潮中央総合病院
事務局（運営・書記兼務）	山崎 淳也	株式会社TLC 戸田中央臨床検査研究所
事務局（学術兼務）	島内 一輝	越谷市立病院
会計部長	田立 さやか	越谷市立病院
会計（運営兼務）	佐藤 則子	さいたま市立病院
学術部長	高橋 俊	学校法人明星学園 国際医療専門学校
学術	永井 克紀	春日部市立医療センター
学術	岸井 こそゑ	埼玉県立大学保健医療福祉学部
学術	細田 健太	自治医科大学附属さいたま医療センター
学術	銅山 雄太	さいたま赤十字病院
学術	菊池 航介	埼玉県済生会加須病院
運営部長	島村 明花	日本医療科学大学
運営（HP担当兼務）	松本 祐弥	獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科
運営（HP担当兼務）	比嘉 良瑚	川口市立医療センター
運営	曾我 洸斗	壮幸会 行田総合病院
運営（書記兼務）	伊吹 早紀	地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター
学会担当理事	伊藤 隆史	医療法人明晴会 西武入間病院
学会担当理事	藤原 美香	学校法人明星学園 国際医療専門学校

研究班研修会報告

テーマ 3D心エコーハンズオン 経胸壁3D心エコーをマスターしよう！

主催 生理検査研究班

実施日時：2024年11月30日 13時00分～16時30分

会 場：さいたま赤十字病院 2F多目的ホール 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：4Dエコーの基本講義 ～きれいな画像を出すためには～

講 師 1：加藤 駿一 医師（さいたま赤十字病院 循環器内科）

講 演 2：3Dエコーのハンズオン ～僧帽弁と三尖弁の評価～

講 師 2：松平 悠（さいたま赤十字病院 検査部）

協 賛：GEヘルスケア・ジャパン株式会社

参加人数：会員11名

出席した研究班班員：野村和弘 新井雅人 島内一輝

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、GEヘルスケア・ジャパン株式会社のVivid E95を2台お借りし、経胸壁3D心エコーのハンズオンを行った。加藤医師より「余力のある2D画像を作れないと、クオリティの高い3D画像を作ることができない」とのメッセージがあった。2Dの心エコーのBモードでデプスを小さくしたり、観察したい部位に絞って画面を狭くしたりするなど、設定を調整してフレームレートを増やさないと、3D心エコーを構築する際にクオリティが下がってしまう。講義では2Dでフレームレートを増やす方法や経胸壁3D心エコーの画像を構築する方法を加藤医師が説明し、松平が実技を行った。その後、実際に参加者にエコーの機械を使ってもらい、クオリティが高い3D心エコーを構築する方法を学んでもらった。

近年、三尖弁に対する治療が注目されている。経食道心エコーに比べて経胸壁心エコーの方が三尖弁を描出しやすく、三尖弁を3Dで構築したり、FlexiSlice機能で三尖弁の形態評価をしたりすることができる。また三尖弁だけでなく、心房中隔欠損症で欠損孔が何箇所あるかを評価することや、僧帽弁下組織の形態評価などもでき、アイデア次第で経胸壁3D心エコー図検査の活用は多岐にわたると感じた。経胸壁3D心エコー図検査の技術を習得することで臨床に貢献できるため、今回の研修会で学んだことを日頃の業務で実践していきたい。

（文責：松平悠）

テーマ 薬剤感受性検査と薬剤耐性菌検出について

主催 微生物検査研究班

実施日時：2024年12月6日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 604会議室 教科・点数：専門教科－30点

講 師：米谷 正太（杏林大学）

参加人数：会員37名 賛助会員7名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井英美 岸井こずゑ 佐々木真一 伊波嵩之
渡辺駿介 大塚聖也 伊吹早紀

研修内容の概要・感想など

今回は「薬剤感受性検査と薬剤耐性菌検出について」をテーマで研修会が開催された。

薬剤感受性検査の目的は、正しい診断と起炎菌同定に基づき治療方針を決定するため、感性の薬剤を把握し感染症治療に有効な抗菌薬を選択するための検査である。薬剤感受性検査には、寒天平板希釈法、微量液体希釈法、ディスク拡散法、E-test（濃度勾配法）があり各法の利点と欠点が解説された。国内の状況として、2024年日臨技サーベイにおける薬剤感受性検査参加施設の約98%が微量液体希釈法で実施されていることが紹介された。薬剤感受性検査実施手技

のポイントや結果の読み方について解説され、直ちに日常検査に活かすことができる内容であった。測定した薬剤感受性結果よりde-escalationを含めた抗菌薬適正使用に繋げるためには、抗菌薬適正使用支援チーム (AST) による介入が重要であり他職種連携の必要性を実感した。

薬剤耐性菌検出については、カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌 (CPE) の検出を中心に講演された。不適切な抗微生物薬の使用により、抗微生物薬に耐性や抵抗性を獲得することを「薬剤耐性 (AMR: Antimicrobial Resistance)」といい、このまま何も対策をとらなければ2050年には全世界でAMR関連の死者数が1000万人になると予測され耐性菌検出の重要性は増している。薬剤感受性検査結果より耐性機構を推測し検査を進めることで耐性菌の見落としを減らすことに繋がる。耐性菌検査には遺伝子検査と表現型検査がある。遺伝子検査による耐性遺伝子の検出は迅速性と精度の面で優れているが、PCRの設備が必要である上、使用するプライマーによっては検出できない遺伝子型も存在する。表現型検査では、modified carbapenem inactivation method (mCIM) によりカルバペネマーゼを検出し、阻害剤などを用い遺伝子型を鑑別するため時間が掛かることや遺伝子検査に比べ感度は劣るが、特別な設備を必要としないなど利点と欠点が解説された。CPEはカルバペネマーゼ遺伝子をプラスミド上に保有するため菌種を超えて伝播する可能性があるため感染対策は感染対策チーム (ICT)、感染症治療はASTとの連携が必要となる。

今回の研修会で得た知識は、正確な薬剤感受性結果を報告するために重要である。新人技師には基礎を学べる良い機会であったとともに、ベテラン技師にとっても知識の再確認ができる内容の講演であった。今後の日常検査に活用していただければ幸いである。

(文責：酒井利育)

テーマ 初心者大歓迎 骨髄形態セミナー ～基礎から症例鑑別まで～

主催 血液検査研究班

実施日時：2024年12月22日 13時00分～16時30分

会場：学校法人 明星学園国際医療専門学校 臨床検査実習室 教科・点数：専門教科ー20点

講演 1：『骨髄像の見かた』

～標本の観察方法から骨髄検査における技師の関わり方～

講師 1：大畑 雅彦 (ベックマン・コールター株式会社)

講演 2：骨髄標本の鏡検実習

講師 2：中山 智史 (防衛医科大学校病院)

堀口 大介 (獨協医科大学埼玉医療センター)

澁川 絵美 (自治医科大学附属さいたま医療センター)

吉澤 悟 (壮幸会 行田総合病院)

窪田 勝己 (埼玉医科大学病院)

山崎 淳也 (株式会社TLC 戸田中央臨床検査研究所)

参加人数：会員14名 賛助会員3名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 澁川絵美 吉澤悟 窪田勝己 山崎淳也

研修内容の概要・感想など

前半は大畑雅彦氏より、骨髄像の観察方法から骨髄検査における技師の関わり方について講義があり後半は実習室にて鏡検実習が行われた。鏡検実習では、1～2名の4つのグループにわかれ、各グループで研究班が用意した骨髄標本の観察を行い、骨髄検査所見用紙の記載方法など研究班を交えて進めていった。骨髄検査の経験が浅い初心者が多かったが、大畑雅彦氏や研究班員に助言をもらいながら、それぞれの症例の観察のポイントを把握することができた。以下に参加者の感想を掲載する。

(文責：窪田勝己)



防衛医科大学病院
福島 明音

この度は、研修会を開催していただきありがとうございます。
私は骨髄検査においての知識・経験が未熟であるため、今回の研修会を通じて深めていきたいと考え参加させていただきました。

大畑先生のご講演では、骨髄像で初めに悩む細胞の分類の際に、細胞の特徴をスケッチすることで理解が深まり早く習得することができると感じました。

また、標本鏡検・グループごとの症例報告では、限られた時間の中で所見をとるポイントを絞っていくことの大切さを学びました。以上の経験を糧に知識・経験を積み上げて、今後の日常業務に活かしていきたいです。



埼玉医科大学病院
小野 恵奈

今回骨髄形態セミナーに参加し、多くのことを学ぶことができました。大畑先生の講義では骨髄を観察する上でのポイントから、MDSで見られる代表的な異形成を教えていただき、異形成を観察する上でのポイントをしっかりと理解することができました。骨髄の鏡検では、まだ骨髄像を見始めて日の浅い私ですが研究班の方が丁寧に教えてくださったので、症例と骨髄像を結び合わせて考えることができとても勉強になりました。



埼玉県臨床検査技師会 OB会入会へのお誘い

埼玉県臨床検査技師会OB会は、定年退職された方や長く賛助会員として勤め上げた方で組織し、親交を深めています。また、埼臨技の支援をいただき学会参加や埼臨技会報など配布し、これまで同様に技師会との変わらない絆を大切にしています。

OB会の趣旨、活動に賛同し入会を希望する方は、下記記載のメールアドレスまたは電話で問い合わせさせていただきたくご案内申し上げます。

埼玉県臨床検査技師会事務所内

E-mail : sairingi-ob@sairingi.com Tel : 048-824-4077

令和6年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第11回 理事会議事録

日時：令和7年1月9日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：松岡 猪浦 山口 濱本 西田 三木
佐瀬 網野 伊藤 藤原 塚原 神嶋
笛木 長谷川 神戸 小林 工藤
久保田 長岡 原 土田
(監事)遠藤 細野

欠席：(理事)阿部

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和6年12月12日～令和7年1月8日)

12月12日(木)令和6年度第10回理事会：

松岡、山口、濱本、西田、三木、
佐瀬、網野、伊藤、藤原、塚原、
神嶋、笛木、長谷川、神戸、小林、
工藤、久保田、原、土田、細谷

12月19日(木)第52回埼玉県医学検査学会実行委員会：伊藤、三木

12月21日(土)令和7年賀詞交歓会及び各賞受賞記念祝賀会 会場打ち合わせ：
塚原、神嶋

12月24日(火)川越保健所による衛生検査所立入検査同行：松岡

1月2日(木)埼臨技事務所巡回：濱本

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1)総会議案書印刷の外部委託について
(別紙資料1)

2 総務部

1)1月15日(水)だより第548号発行予定
2)1月19日(日)タスクシフト講習会 埼玉031
開催予定
猪浦(責任者)、長谷川、小林、伊藤、藤原、原、佐瀬

3)創立70周年記念誌を作成し、会員施設に配布した。

3 事業部

1)12月21日(土)令和7年賀詞交歓会及び各賞受賞記念祝賀会会場打ち合わせをおこなった。
(別紙資料2)

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部

1)12月9日(月)予算委員会を開催した。
(別紙資料3)

2)令和6年度正会員費7名35,000円、入会金7名7,000円、合計42,000円の入金があった。

3)日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金80,500円の入金があった。
累計364,000円/8回

4)石井印刷に埼臨技だより第547号Web版10P 50,600円、会誌Vol.71-No.2印刷代683,716円、2024年度名簿印刷代138,875円、仕分費26,884円、封筒(角2)60,500円、封筒(長3)41,250円、合計1,001,825円を支払った。

7 精度管理委員会 特になし

8 一都八県会長会議 特になし

9 日臨技関甲信支部 特になし

10 日臨技 特になし

11 第52回埼玉県医学検査学会

1)12月19日(木)第15回実行委員会が開催された。
(別紙資料4)

12 第53回埼玉県医学検査学会

1)12月2日(火)第2回実行委員会が開催された。
(別紙資料5)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

1)会員動向(令和6年度分)
令和7年1月1日現在
会員数 3,668名[令和5年度会員数3,572名]
(新入会員284名)
賛助会員 73社[令和5年度71社]
承認された。

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部

1)令和7年度研究班事業計画について
(別紙資料8)

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

2) 令和7年度日臨技関甲信支部・首都圏支部
研修会「血液検査研修会」について

(別紙資料9)

上記の件について、久保田学術部長より
発言があり、審議の結果、承認された。

3) 第52回埼玉県医学検査学会各賞受賞者につ
いて

(別紙資料10)

上記の件について、久保田学術部長より
発言があり、審議の結果、承認された。

4) JAMTIS学術権限の付与「遺伝子染色体検
査研究班 班長代理のJAMTIS権限」につ
いて

上記の件について、久保田学術部長より
発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員会 特になし

8 第53回埼玉県医学検査学会

1) 学会サブテーマについて (別紙資料5)

上記の件について、伊藤隆史理事より
発言があり、審議の結果、承認された。

2) 学会ロゴを承認について (別紙資料5)

上記の件について、伊藤理事より発言が
あり、審議の結果、承認された。

10 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会
特になし

IV. 議題

1 事務局

1) 臨時総会議案書について (別紙資料11)

上記の件について、濱本隆明事務局長よ
り発言があり、審議の結果、可決された。

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝
して閉会とした。

訃報のお知らせ

当会名誉会員で第15代会長の五内川里子様
が2025年1月に逝去されました。

ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでご通知
申し上げます。

あ と が き

通常2月3日は、節分であるはずが今年は、立春が2月3日であるためその前日2月2日
が節分となりました。

節分には、季節を分けるという意味があり、節分の起源は古代中国の「追儺（ついな）」
という儀式にさかのぼり、悪霊を追い払うための行事だったそうです。日本に伝わる際に豆
を使った風習が加わり、「魔を滅する」と意味をもつ豆を使い邪気を払うために撒くよう
になりました。現在の節分では、豆まきをする以外に恵方巻きを食べる、けんちん汁を飲む、
そばを食べるなど地方により様々な過ごし方があるようです。我が家でも袋に入った豆を投
げる予定ですが、さすがに年の数だけ豆を食べるのは無理になってきており、恵方巻きにし
ようかなあなんて考えています。

今年は、インフルエンザが大流行していますが、皆さん、体調を崩されませんように

(網野 記)

